



平成 27 年 12 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 一 蔵
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 河 端 義 彦
(コード番号：6186 東証市場第二部)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 鈴 木 義 孝
(TEL. 048-660-2211)

東京証券取引所市場第二部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 27 年 12 月 25 日に東京証券取引所市場第二部に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個 別】

(単位：百万円・%)

項 目	決 算 期	平成 28 年 3 月 期 (予想)		平成 28 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (実績)		平成 27 年 3 月 期 (実績)		
		対 売 上 高 比 率	対 前 期 増 減 率	対 売 上 高 比 率	対 売 上 高 比 率			
売 上 高		13,774	100.0	5.4	6,435	100.0	13,065	100.0
営 業 利 益		1,020	7.4	31.1	268	4.2	777	6.0
経 常 利 益		1,005	7.3	33.0	263	4.1	755	5.8
当 期 (四 半 期) 純 利 益		639	4.6	25.6	163	2.5	509	3.9
1 株 当 た り 当 期 (四 半 期) 純 利 益		153 円 65 銭		43 円 58 銭		135 円 61 銭		
1 株 当 た り 配 当 金		35 円 00 銭		0 円 00 銭		0 円 00 銭		

- (注) 1. 平成 27 年 3 月 期 (実績) 及び平成 28 年 3 月 期第 2 四半期累計期間 (実績) の 1 株当たり当期 (四半期) 純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。平成 28 年 3 月 期 (予想) の 1 株当たり当期純利益は公募株式数 (1,500,000 株) を含めた期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分 (最大 301,800 株) は考慮しておりません。
2. 平成 27 年 8 月 20 日付で、株式 1 株につき 5,000 株の株式分割を行っております。上記では、平成 27 年 3 月 期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期 (四半期) 純利益を算出しております。

【平成 28 年 3 月期業績予想の前提条件】

(1) 全体の見通し

当社は呉服等の販売、振袖等の販売・レンタル、成人式の前撮り写真撮影サービス、成人式当日の着付け及びメイクサービス、着物の着方教室の運営等を行う和装事業、並びに結婚式場の運営等を行うウエディング事業を営んでおります。

【和装事業】

当社が属する和装業界は、昭和 56 年（呉服小売市場規模 1.8 兆円（矢野経済研究所「きもの年鑑」））以降、産地工房の職人等作り手の高齢化、消費者のライフサイクルの変化等により縮小傾向が続いておりましたが、昨今、①振袖を中心としたレンタル需要や着方教室をきっかけに呉服販売等が盛んになりつつあること、②以前は資産として高価な着物を所有し特別な機会にのみ着用することが多い傾向にありましたが、ファッションとして“着て”楽しむ消費者層が増加（「所有」から「使用」へと変化）するなどの兆しが見られること、③経済産業省が国内和装産業の振興を図るため「きもの日」の導入を検討していること、④平成 26 年の訪日外国人旅行者が年間 1,340 万人を超え（日本政府観光局（JNTO「平成 26 年訪日外客数年間推計値」）、そのうち 23%程度の方が日本への観光動機を「歴史・伝統文化体験」、14%程度の方が日本旅行のお土産として着物等を購入されるなど和 문화が外国人から一定の注目を集めていること（観光庁「訪日外国人諸費動向調査」）などから呉服業界には引き続き大きな市場があると考えております。

【ウエディング事業】

ウエディング業界におきましては、当社が手がけるゲストハウススタイルでの挙式・披露宴が人気となり市場の底上げに寄与するものの、少子化により結婚適齢期を迎える人口が減少していることと、晩婚化、未婚化等の影響により婚姻組数の減少傾向が続いていること（厚生労働省「平成 26 年人口動態統計の年間推計」）、また異業種からウエディング事業への新規参入、顧客ニーズの多様化等により、今後ますますシェアの確保等競争が激化していくことが想定されます。

【全体】

このような環境下におきまして、平成 28 年 3 月期の業績は、売上高は 13,774 百万円（前期比 5.4%増）、営業利益は 1,020 百万円（前期比 31.1%増）、経常利益は 1,005 百万円（前期比 33.0%増）、当期純利益は 639 百万円（前期比 25.6%増）となる見込みであります。

なお、当社のセグメント毎の業績予想は以下のとおりであります。

(2) 個別の前提条件

①売上高

平成 28 年 3 月期の売上高は 13,774 百万円（前期比 5.4%増）を見込んでおります。売上高計画は各事業別に策定しております。

【和装事業】

当社は一定の集客が見込める全国主要都市のオフィスビルやショッピングセンター等に小売店舗等を構え呉服等の販売、振袖等の販売・レンタル、成人式の前撮り写真撮影サービス、成人式当日の着付け及びメイクサービス、着物の着方教室の運営等を行っております。

平成 27 年 3 月末現在では 62 店舗を展開しており、既存店舗については、店舗毎に、計画策定時点における受注実績及び前期における商品別受注実績並びに過去 2 期の平

均伸び率などを加味し、月別の売上計画を策定しております。計画策定時点で出店が決定していた1店舗については、取扱商品、立地条件、店舗面積などが同等の既存店舗の前期における商品別受注実績などを参考に、月別の売上計画を策定しております。当該店舗のうち、フォトスタジオを併設している店舗については、店舗毎に、計画策定時点における撮影受注実績及び過去2期の平均伸び率などを加味し、また着方教室を併設している店舗については、計画策定時点における生徒数及び過去2期の平均伸び率などを加味し、月別の売上計画を策定しております。また、当社の複数店舗が共同出展しホテルの広間等において1億円以上/回の受注を誇る大型催事を年4回開催しているほか、当社の各店舗が店内外において中小規模の催事を月2回程度開催するなどにより受注拡大に努めております。催事による売上計画は、大型催事については各催事に出席予定の店舗毎に、中小規模の催事については店舗毎に、催事の規模や前期における商品別受注実績などを参考に、売上計画を策定しております。

平成28年3月期の和装事業の売上高は、平成28年3月期第2四半期累計期間における積極的な広告宣伝やシルバーウィークに開催した催事が奏功し、特に振袖の販売、レンタル、成人式の前撮り写真撮影などの受注が大きく伸長したこと、また平成28年3月期下半期は大型催事の開催などにより受注増が見込めることから、8,907百万円（前期比5.7%増[内訳]販売売上4,520百万円、レンタル売上1,345百万円、加工売上1,000百万円、写真売上1,946百万円、その他売上93百万円）を見込んでおります。

なお、平成28年3月期第2四半期累計期間における和装事業の売上高は4,028百万円（前年同期比6.2%増[内訳]販売売上2,058百万円、レンタル売上537百万円、加工売上474百万円、写真売上910百万円、その他売上48百万円）、平成28年3月期第2四半期累計期間末における平成28年3月期下半期中に売上計上する和装事業の受注残高は2,388百万円（前年同期比17.0%（347百万円）増）となっており、平成28年3月期通期の売上計画対比72.0%の進捗で推移しております。

【ウェディング事業】

当社はゲストハウスタイプの結婚式場を3館（さいたま市1館、名古屋市2館、総チャペル数4、総バンケット数8）運営しております。挙式・披露宴を施行する日を売上計上日としていることから、式場毎の計画策定時点における成約実績から平成28年3月期中に挙式・披露宴を施行する組数や成約時の見積金額を月別に売上計画に反映するほか、平成28年3月期下半期は過去2期における顧客向けウィンタープランの受注増加分を参考にした平成28年2月までに挙式・披露宴を挙げる顧客向けのウィンタープランによる受注増加見込み分、季節的偏重を加味するため前期の月別の挙式・披露宴の実績施行単価などを参考に各月の売上計画を策定しております。

平成28年3月期のウェディング事業の売上高は、積極的な広告宣伝やプロジェクトシヨンマッピングなど新サービスが奏功した結果、一組当たりの招待客数が計画を上回り一組当たりの挙式・披露宴の実績施行単価が増加する見込みであることから、4,867百万円（前期比4.9%増）を見込んでおります。

なお、平成28年3月期における挙式・披露宴の施行組数は1,407組（前期比5.0%（67組）増）を計画しており、平成28年3月期第2四半期累計期間における実績施行組数は692組、平成28年3月期第2四半期会計期間末における成約済みの平成28年3月期下半期中の予定施行組数は695組であることから、平成28年3月期通期の挙式・披露宴の計画組数対比98.6%の進捗で推移しております。

②売上原価

平成28年3月期の売上原価は5,069百万円（前期比0.7%減）を見込んでおります。売上原価計画は各事業別に策定しております。

【和装事業】

主に、呉服や振袖等の仕入代金や仕立加工代、写真原価、レンタル資産の償却額などにより構成されております。既存店舗、新規店舗共に、商品仕入代金、仕立加工代、写真原価については予算策定時点において取引業者と定めた発注単価を参考に、また、レンタル資産の償却額については耐用年数に応じ算定した償却額を基に、店舗毎に月別の売上原価予算を策定しております。

平成28年3月期の和装事業の売上原価は、アルバム制作の内製化による原価低減が図れたことなどから、3,146百万円（前期比1.1%減）を見込んでおります。

【ウェディング事業】

主に、挙式・披露宴の施行に係る直接人件費、牧師等挙式の演出に係る外注費、披露宴等で提供する料理の食材等の仕入代金、引出物の仕入代金などにより構成されております。直接人件費については受注計画に基づく人員計画を参考に、また、外注費、食材等、引出物については予算策定時点において取引業者と定めた発注単価を参考に、式場毎に月別の売上原価予算を策定しております。

なお、平成28年3月期におけるウェディング事業の人員計画は、挙式・披露宴の施行組数増加に対応するため新卒採用及び中途採用により、前期比12名増の171名、人件費は754百万円（前期比5.9%増）を見込んでおります。

以上の結果、平成28年3月期のウェディング事業の売上原価は、挙式・披露宴の映像編集や引出物の一部内製化による原価低減が図れたことなどから、1,923百万円（前期比0.9百万円増）を見込んでおります。

③販売費及び一般管理費

平成28年3月期の販売費及び一般管理費は7,684百万円（前期比7.0%増）を見込んでおります。販売費及び一般管理費計画は各事業別に策定しております。

【和装事業】

既存店舗については、前期実績を参考にし、変動費（販売手数料、広告宣伝費等）と固定費（人件費、地代家賃等）に区分し、変動費については、受注増加に伴う取扱代理店等への販売手数料の増加、受注拡大に向けた広告宣伝費の増加などを加味し、店舗毎の月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。新規店舗につきましては、取扱商品、立地条件及び店舗面積などが同等の既存店舗の前期実績などを参考に、月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。

なお、平成28年3月期における和装事業の人員計画は、主に出店、既存店舗の業容拡大及び管理体制強化のため、前期比53名増の422名、人件費は1,929百万円（前期比9.1%増）を見込んでおります。

以上の結果、和装事業の販売費及び一般管理費は5,153百万円（前期比9.8%増）を見込んでおります。

【ウェディング事業】

前期実績を参考にし、変動費（広告宣伝費等）と固定費（人件費、減価償却費、地代家賃等）に区分し、変動費については、受注拡大に向けた広告宣伝費の増加などを加味し、式場別に月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。

なお、平成28年3月期におけるウェディング事業の人員計画は、主にインバウンド事業の受注拡大及び管理体制強化のため、前期比10名増の61名、人件費は483百万円（前期比11.4%増）を見込んでおります。

以上の結果、ウェディング事業の販売費及び一般管理費は1,934百万円（前期比0.1%増）を見込んでおります。

【本社部門】

前期実績を参考に月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。平成 28 年 3 月期については 596 百万円を見込んでおり、上場関連費用として 49 百万円を販売費及び一般管理費計画に含めております。

④営業利益

平成 28 年 3 月期の営業利益は 1,020 百万円（前期比 31.1%増）を見込んでおります。

⑤経常利益

営業外収入として、ウエディング事業における旅行代理店や宝飾業者からの紹介手数料収入などを見込んでおります。

また、営業外費用として、式場建設などのための借入金に係る支払利息を見込んでおります。

以上の結果、平成 28 年 3 月期の経常利益は 1,005 百万円（前期比 33.0%増）を見込んでおります。

⑥当期純利益

法人税等については、平成 27 年 3 月期実績と比較して大きな税率の変動はないものと見込んでおります。この結果、平成 28 年 3 月期の当期純利益は 639 百万円（前期比 25.6%増）を見込んでおります。

※上記の業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年12月25日

上場会社名 株式会社一蔵 上場取引所 東
 コード番号 6186 URL http://www.ichikura.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河端 義彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 鈴木 義孝 TEL 048 (660) 2211 (代表)
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	6,435	—	268	—	263	—	163	—
27年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	43.58	—
27年3月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 平成27年3月期第2四半期は四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期実績につきましては記載しておりません。
 2. 当社は、平成27年8月20日付で普通株式1株につき5,000株の株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	12,368	2,628	21.3
27年3月期	12,158	2,482	20.4

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 2,628百万円 27年3月期 2,482百万円

- (注) 当社は、平成27年8月20日付で普通株式1株につき5,000株の株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,774	5.4	1,020	31.1	1,005	33.0	639	25.6	153.65

- (注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 平成27年8月20日付で普通株式1株につき5,000株の株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算出してあります。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	3,754,000株	27年3月期	3,754,000株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	－株	27年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	3,754,000株	27年3月期2Q	3,754,000株

(注) 当社は、平成27年8月20日付で普通株式1株につき5,000株の株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表	8
(1) 四半期貸借対照表	8
(2) 四半期損益計算書	9
第2四半期累計期間	9
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

業績の状況

当第2四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融緩和、円安により輸出企業の業績が改善し、あるいは雇用環境の改善を背景として、全般的に緩やかな回復基調が持続しております。一方、個人消費につきましても、消費増税の影響が一巡し回復の兆しは見られるものの、円安による物価上昇や実質賃金の伸び悩みなどから景気回復実感に乏しく、実体経済の先行きは依然として不透明な状況にあります。

和装業界におきましては、作り手の高齢化、消費者のライフサイクルの変化等により市場縮小傾向が続いておりましたが、振袖を中心としたレンタル需要や着方教室をきっかけに呉服販売等が盛んになりつつあること、更に、以前は資産として高価な着物を所有し特別な機会に着用することが多かったが、昨今ではファッションとして”着て”楽しむ消費者層が増加（「所有」から「使用」へと変化）するなど、明るい兆しも伝えられております（株式会社矢野経済研究所「呉服市場に関する調査結果2015」）。また、ウエディング業界におきましては、平成26年の婚姻組数が約65万組（厚生労働省「平成26年（2014）人口動態統計の年間推計」）と前年に比べ大きな変化はなく需要は堅調に推移している一方で、専門式場やホテルのリニューアル、異業種からウエディング事業に新規参入、価格競争の激化、顧客ニーズの多様化等により、業界内の競争は激化しております。

このような環境下におきまして、当社は和装事業ならびにウエディング事業においてお客様のニーズにマッチした商品やサービス展開、積極的な広告宣伝・販売促進により受注拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は6,435,475千円、営業利益は268,978千円、経常利益は263,315千円、四半期純利益は163,605千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①和装事業

和装事業については、売上高は4,028,864千円、セグメント利益は22,011千円となりました。

②ウエディング事業

ウエディング事業については、売上高は2,406,610千円、セグメント利益は520,078千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて3.7%増加し5,727,779千円となりました。これは商品が136,315千円、仕掛品が73,242千円それぞれ増加したことなどによりです。

固定資産は、前事業年度末に比べて0.0%増加し6,640,637千円となりました。

その結果、総資産は前事業年度末に比べて1.7%増加し12,368,417千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて3.5%増加し7,286,251千円となりました。これは前受金が913,156千円増加した反面、未払金が96,149千円、未払消費税が152,724千円、未払法人税等が197,654千円それぞれ減少したことなどによりです。

固定負債は、前事業年度末に比べて7.0%減少し2,453,550千円となりました。これは長期借入金が223,860千円減少したことなどによりです。

その結果、総負債は前事業年度末に比べて0.7%増加し9,739,801千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて5.9%増加し2,628,616千円となりました。これは利益剰余金が163,605千円増加したことなどによりです。

(3) 業績予想に関する説明

(全体の見通し)

当社は呉服等の販売、振袖等の販売・レンタル、成人式の前撮り写真撮影サービス、成人式当日の着付け及びメイクサービス、着物の着方教室の運営等を行う和装事業、並びに結婚式場の運営等を行うウエディング事業を営んでおります。

【和装事業】

当社が属する和装業界は、昭和56年（呉服小売市場規模1.8兆円（矢野経済研究所「きもの年鑑」））以降、産地工場の職人等作り手の高齢化、消費者のライフサイクルの変化等により縮小傾向が続いておりましたが、昨今、①振袖を中心としたレンタル需要や着方教室をきっかけに呉服販売等が盛んになりつつあること、②以前は資産として高価な着物を所有し特別な機会にのみ着用することが多い傾向にありましたが、ファッションとして”着て”楽しむ消費者層が増加（「所有」から「使用」へと変化）するなどの兆しが見られること、③経済産業省が国内和装産業の振興を図るため「きもの日」の導入を検討していること、④平

成26年の訪日外国人旅行者が年間1,340万人を超え（日本政府観光局（JNTO「平成26年訪日外客数年間推計値」）、そのうち23%程度の方が日本への観光動機を「歴史・伝統文化体験」、14%程度の方が日本旅行のお土産として着物等を購入されるなど和 문화が外国人から一定の注目を集めていること（観光庁「訪日外国人諸費動向調査」）などから呉服業界には引き続き大きな市場があると考えております。

【ウエディング事業】

ウエディング業界におきましては、当社が手がけるゲストハウススタイルでの挙式・披露宴が人気となり市場の底上げに寄与するものの、少子化により結婚適齢期を迎える人口が減少していることと、晩婚化、未婚化等の影響により婚姻組数の減少傾向が続いていること（厚生労働省「平成26年人口動態統計の年間推計」）、また異業種からウエディング事業への新規参入、顧客ニーズの多様化等により、今後ますますシェアの確保等競争が激化していくことが想定されます。

【全体】

このような環境下におきまして、平成28年3月期の業績は、売上高は13,774百万円（前期比5.4%増）、営業利益は1,020百万円（前期比31.1%増）、経常利益は1,005百万円（前期比33.0%増）、当期純利益は639百万円（前期比25.6%増）となる見込みであります。

なお、当社のセグメント毎の業績予想は以下のとおりであります。

（個別の前提条件）

①売上高

平成28年3月期の売上高は13,774百万円（前期比5.4%増）を見込んでおります。売上高計画は各事業別に策定しております。

【和装事業】

当社は一定の集客が見込める全国主要都市のオフィスビルやショッピングセンター等に小売店舗等を構え呉服等の販売、振袖等の販売・レンタル、成人式の前撮り写真撮影サービス、成人式当日の着付け及びメイクサービス、着物の着方教室の運営等を行っております。

平成27年3月末現在では62店舗を展開しており、既存店舗については、店舗毎に、計画策定時点における受注実績及び前期における商品別受注実績並びに過去2期の平均伸び率などを加味し、月別の売上計画を策定しております。計画策定時点で出店が決定していた1店舗については、取扱商品、立地条件、店舗面積などが同等の既存店舗の前期における商品別受注実績などを参考に、月別の売上計画を策定しております。当該店舗のうち、フォトスタジオを併設している店舗については、店舗毎に、計画策定時点における撮影受注実績及び過去2期の平均伸び率などを加味し、また着方教室を併設している店舗については、計画策定時点における生徒数及び過去2期の平均伸び率などを加味し、月別の売上計画を策定しております。また、当社の複数店舗が共同出展しホテルの広間等において1億円以上/回の受注を誇る大型催事を年4回開催しているほか、当社の各店舗が店内外において中小規模の催事を月2回程度開催するなどにより受注拡大に努めております。催事による売上計画は、大型催事については各催事に出席予定の店舗毎に、中小規模の催事については店舗毎に、催事の規模や前期における商品別受注実績などを参考に、売上計画を策定しております。

平成28年3月期の和装事業の売上高は、平成28年3月期第2四半期累計期間における積極的な広告宣伝やシルバーウィークに開催した催事が奏功し、特に振袖の販売、レンタル、成人式の前撮り写真撮影などの受注が大きく伸長したこと、また平成28年3月期下半期は大型催事の開催などにより受注増が見込めることから、8,907百万円（前期比5.7%増[内訳]販売売上4,520百万円、レンタル売上1,345百万円、加工売上1,000百万円、写真売上1,946百万円、その他売上93百万円）を見込んでおります。

なお、平成28年3月期第2四半期累計期間における和装事業の売上高は4,028百万円（前年同期比6.2%増[内訳]販売売上2,058百万円、レンタル売上537百万円、加工売上474百万円、写真売上910百万円、その他売上48百万円）、平成28年3月期第2四半期累計期間末における平成28年3月期下半期中に売上計上する和装事業の受注残高は2,388百万円（前年同期比17.0%（347百万円）増）となっており、平成28年3月期通期の売上計画対比72.0%の進捗で推移しております。

【ウエディング事業】

当社はゲストハウスタイプの結婚式場を3館（さいたま市1館、名古屋市2館、総チャペル数4、総バンケット数8）運営しております。挙式・披露宴を施行する日を売上計上日としていることから、式場毎の計画策定時点における成約実績から平成28年3月期中に挙式・披露宴を施行する組数や成約時の見積金額を月別に売上計画に反映するほか、平成28年3月期下半期は過去2期における顧客向けウィンタープランの受注増加分を参考にした平成28年2月までに挙式・披露宴を挙げる顧客向けのウィンタープランによる受注増加見込み分、季節的偏重を加味するため前期の月別の挙式・披露宴の実績施行単価などを参考に各月の売上計画を策定しております。

平成28年3月期のウェディング事業の売上高は、積極的な広告宣伝やプロジェクションマッピングなど新サービスが奏功した結果、一組当たりの招待客数が計画を上回り一組当たりの挙式・披露宴の実績施行単価が増加する見込みであることから、4,867百万円（前期比4.9%増）を見込んでおります。

なお、平成28年3月期における挙式・披露宴の施行組数は1,407組（前期比5.0%（67組）増）を計画しており、平成28年3月期第2四半期累計期間における実績施行組数は692組、平成28年3月期第2四半期会計期間末における成約済みの平成28年3月期下半期中の予定施行組数は695組であることから、平成28年3月期通期の挙式・披露宴の計画組数対比98.6%の進捗で推移しております。

②売上原価

平成28年3月期の売上原価は5,069百万円（前期比0.7%減）を見込んでおります。売上原価計画は各事業別に策定しております。

【和装事業】

主に、呉服や振袖等の仕入代金や仕立加工代、写真原価、レンタル資産の償却額などにより構成されております。既存店舗、新規店舗共に、商品仕入代金、仕立加工代、写真原価については予算策定時点において取引業者と定めた発注単価を参考に、また、レンタル資産の償却額については耐用年数に応じ算定した償却額を基に、店舗毎に月別の売上原価予算を策定しております。

平成28年3月期の和装事業の売上原価は、アルバム制作の内製化による原価低減が図れたことなどから、3,146百万円（前期比1.1%減）を見込んでおります。

【ウェディング事業】

主に、挙式・披露宴の施行に係る直接人件費、牧師等挙式の演出に係る外注費、披露宴等で提供する料理の食材等の仕入代金、引出物の仕入代金などにより構成されております。直接人件費については受注計画に基づく人員計画を参考に、また、外注費、食材等、引出物については予算策定時点において取引業者と定めた発注単価を参考に、式場毎に月別の売上原価予算を策定しております。

なお、平成28年3月期におけるウェディング事業の人員計画は、挙式・披露宴の施行組数増加に対応するため新卒採用及び中途採用により、前期比12名増の171名、人件費は754百万円（前期比5.9%増）を見込んでおります。

以上の結果、平成28年3月期のウェディング事業の売上原価は、挙式・披露宴の映像編集や引出物の一部内製化による原価低減が図れたことなどから、1,923百万円（前期比0.9百万円増）を見込んでおります。

③販売費及び一般管理費

平成28年3月期の販売費及び一般管理費は7,684百万円（前期比7.0%増）を見込んでおります。販売費及び一般管理費計画は各事業別に策定しております。

【和装事業】

既存店舗については、前期実績を参考にし、変動費（販売手数料、広告宣伝費等）と固定費（人件費、地代家賃等）に区分し、変動費については、受注増加に伴う取扱代理店等への販売手数料の増加、受注拡大に向けた広告宣伝費の増加などを加味し、店舗毎の月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。新規店舗につきましては、取扱商品、立地条件及び店舗面積などが同等の既存店舗の前期実績などを参考に、月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。

なお、平成28年3月期における和装事業の人員計画は、主に出店、既存店舗の業容拡大及び管理体制強化のため、前期比53名増の422名、人件費は1,929百万円（前期比9.1%増）を見込んでおります。

以上の結果、和装事業の販売費及び一般管理費は5,153百万円（前期比9.8%増）を見込んでおります。

【ウェディング事業】

前期実績を参考にし、変動費（広告宣伝費等）と固定費（人件費、減価償却費、地代家賃等）に区分し、変動費については、受注拡大に向けた広告宣伝費の増加などを加味し、式場別に月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。

なお、平成28年3月期におけるウェディング事業の人員計画は、主にインバウンド事業の受注拡大及び管理体制強化のため、前期比10名増の61名、人件費は483百万円（前期比11.4%増）を見込んでおります。

以上の結果、ウェディング事業の販売費及び一般管理費は1,934百万円（前期比0.1%増）を見込んでおります。

【本社部門】

前期実績を参考に月別の販売費及び一般管理費計画を策定しております。平成28年3月期については596百万円を見込んでおり、上場関連費用として49百万円を販売費及び一般管理費計画に含めております。

④営業利益

平成28年3月期の営業利益は1,020百万円（前期比31.1%増）を見込んでおります。

⑤経常利益

営業外収入として、ウエディング事業における旅行代理店や宝飾業者からの紹介手数料収入などを見込んでおります。

また、営業外費用として、式場建設などのための借入金に係る支払利息を見込んでおります。

以上の結果、平成28年3月期の経常利益は1,005百万円（前期比33.0%増）を見込んでおります。

⑥当期純利益

法人税等については、平成27年3月期実績と比較して大きな税率の変動はないものと見込んでおります。

この結果、平成28年3月期の当期純利益は639百万円（前期比25.6%増）を見込んでおります。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,305,960	2,336,208
売掛金	495,232	466,283
商品	1,146,301	1,282,616
レンタル商品	1,122,705	1,132,657
仕掛品	191,123	264,365
原材料及び貯蔵品	82,954	81,447
前払費用	92,936	116,431
繰延税金資産	68,889	24,189
その他	15,419	23,578
流動資産合計	5,521,523	5,727,779
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,420,557	4,337,692
その他(純額)	912,179	954,997
有形固定資産合計	5,332,736	5,292,690
無形固定資産	99,373	109,385
投資その他の資産	1,205,361	1,238,562
固定資産合計	6,637,471	6,640,637
資産合計	12,158,994	12,368,417
負債の部		
流動負債		
買掛金	686,419	664,091
短期借入金	1,650,000	1,570,000
1年内返済予定の長期借入金	478,285	447,720
未払法人税等	256,527	58,873
前受金	2,980,435	3,893,591
賞与引当金	52,660	—
その他	933,546	651,974
流動負債合計	7,037,874	7,286,251
固定負債		
長期借入金	1,884,816	1,660,956
退職給付引当金	217,306	229,491
役員退職慰労引当金	287,450	298,320
資産除去債務	186,400	192,937
その他	62,884	71,845
固定負債合計	2,638,858	2,453,550
負債合計	9,676,732	9,739,801
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,800	37,800
資本剰余金	27,099	27,099
利益剰余金	2,389,864	2,553,470
株主資本合計	2,454,763	2,618,369
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	27,498	10,246
評価・換算差額等合計	27,498	10,246
純資産合計	2,482,262	2,628,616
負債純資産合計	12,158,994	12,368,417

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	6,435,475
売上原価	2,409,616
売上総利益	4,025,859
販売費及び一般管理費	3,756,881
営業利益	268,978
営業外収益	
受取利息及び配当金	3,160
受取手数料	4,819
その他	5,294
営業外収益合計	13,274
営業外費用	
支払利息	18,091
その他	845
営業外費用合計	18,937
経常利益	263,315
特別利益	
固定資産売却益	38
特別利益合計	38
特別損失	
固定資産除却損	381
特別損失合計	381
税引前四半期純利益	262,971
法人税、住民税及び事業税	59,482
法人税等調整額	39,883
法人税等合計	99,366
四半期純利益	163,605

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期損益計 算書計上額 (注2)
	和装事業	ウエディング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,028,864	2,406,610	6,435,475	—	6,435,475
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,028,864	2,406,610	6,435,475	—	6,435,475
セグメント利益	22,011	520,078	542,089	△273,111	268,978

(注) 1. 調整額は以下のとおりです。

セグメント利益の調整額△273,111千円は本社管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。